

目の健康考えてみませんか!?

視聴
無料

山口県眼科医会
第21回 目の健康講座

日本眼科医会 創立90周年記念事業 一般公開「目の健康講座」

■視聴期間 令和3年 9月26日(日)~10月10日(日)

■オンデマンド配信 山口県眼科医会ホームページを
ご参照ください
<http://www.yamaguchi.med.or.jp/g-med/gankaikai/>



山口県眼科医会ホームページ

講演① 「日本眼科医会 活動報告」

講演② 「緑内障とその治療について」

山口大学大学院医学系研究科眼科学 永井 智彦先生

講演③ 「糖尿病網膜症とその治療について」

山口大学大学院医学系研究科眼科学 波多野 誠先生

講演④ 「見えづらい方へのアドバイス (ロービジョンケア) について」

やまぐちロービジョン勉強会代表 山口県眼科医会公衆衛生担当理事 福村 美帆先生

第21回

山口県眼科医会 目の健康講座

令和
3年度

日本眼科医会 創立90周年記念事業 一般公開「目の健康講座」

ごあいさつ

わたしたちは、五感によって外界から多くの情報を取り入れています。その大部分が視覚からであり、安全で文化的な生活をするには、良好な視機能が必要です。長寿に伴う老化は避けられませんが、加齢白内障のように眼内レンズによって視力を回復できるようになったものもあります。医学の進歩により、検査機械や薬、手術法が進歩したとはいえ回復困難な病気もあります。現在、成人の中途失明の原因は、緑内障、網膜色素変性症、糖尿病網膜症、次いで黄斑変性となっています。その中で、緑内障、糖尿病網膜症は中高年に多く早期発見と適切な治療により進行を抑制できるにもかかわらず、自覚症状に乏しいため発見が遅れがちです。

健康長寿を全うするためには視機能の維持が大切です。今年は、テーマとして緑内障と糖尿病網膜症を取り上げました。講師の先生方には、専門的立場からみなさんに分かりやすく解説していただきます。

山口県眼科医会は、目の健康を守るために毎年、「目の健康講座」を開催し啓発を行っています。このたびの講座がみなさまのお役に立てることを願っています。

山口県眼科医会
会長 大西 徹 先生

講 演

演題① 日本眼科医会 活動報告

演題② 緑内障とその治療について

山口大学大学院医学系研究科眼科学
永井 智彦 先生

緑内障は主に視野障害をきたす進行性の視神経の病気で、我が国における失明原因の第1位となっています。日本緑内障学会が行った疫学調査では、40歳以上の日本人の20人に1人の割合で緑内障患者さんがいることが明らかとなりました。また、緑内障の有病率は、年齢とともに増加することが知られており、高齢化が進む我が国においては今後さらに患者数が増加していくことが予想されます。調査では、発見された緑内障患者さんのうち、それまでに緑内障と診断されていたのは全体の1割程度で、緑内障に気づかずに過ごしている人が大勢いることが判明しました。実際に緑内障患者さんは、かなり病期が進行して視野や視力が悪化して初めて眼科を受診することも多いようです。

緑内障は、喪失した視機能を治療によって取り戻すことができない病気ですが、眼圧を下げることであれば、進行を防止したり、遅らせたりすることができる可能性があるため、早期発見・早期治療が特に重要と言えます。本講演が緑内障に対する理解を深める機会となれば幸いです。

演題③ 糖尿病網膜症とその治療について

山口大学大学院医学系研究科眼科学
波多野 誠 先生

近年、糖尿病の患者さんは増加し続けており、国内での糖尿病罹患患者は予備軍を含め2000万人を超えています。

糖尿病網膜症は糖尿病腎症・糖尿病神経障害とともに糖尿病の3大合併症のひとつで、糖尿病網膜症の発症頻度も糖尿病患者数の増加と罹患期間の長期化により著しく増加しています。糖尿病に対する内科的な全身管理と眼科的な治療技術の進歩により、糖尿病網膜症による完全な失明は減少してきていますが、糖尿病は自覚症状に乏しいため眼科受診しないケースも多く、毎年約3000人もの方が失明し、現在も我が国の中途失明の重大要因となっています。網膜症を早期発見するためには、内科で糖尿病と診断されたら、目に自覚症状がなくても眼科での定期的な検査が重要となります。

本講演では糖尿病網膜症の病態や治療方針決定のために必要な眼科検査、糖尿病網膜症に対する治療をお話することで、糖尿病と眼の関係について理解して頂きたいと思います。

演題④ 「見えづらい方へのアドバイス（ロービジョンケア）について」

やまぐちロービジョン勉強会代表 山口県眼科医会公衆衛生担当理事
福村 美帆 先生

ロービジョン（＝低視力）の定義は、「眼鏡やコンタクトレンズなどの矯正器具を使用しても視力が十分に矯正できず、生活に不便と感じる状態」とされ、その視覚障害の原因となる疾患としては、緑内障、糖尿病網膜症、網膜色素変性症、加齢黄斑変性、強度近視などがあります。最新の医学でも限界があり、治療をしても見えにくい方、全盲の方が全国に約30万人以上おられます。しかし、視覚障害者自身にも情報が十分に行き届いていないため、社会生活が困難となっているケースも多くみられます。現在、山口県内には5千人以上の身体障害者手帳を取得した視覚障害者がおられ、県民の250人に一人の割合となっています。山口県でも医療、福祉、教育、就労、当事者団体など各分野が連携してロービジョンケアを行うために、「山口県ロービジョンケアネットワーク」を昨年立ち上げて、視覚障害により生活に支障のある方に対して、それぞれの悩みに応じた適切な指導や訓練が受けられる相談先を紹介するリーフレットを作成しました。ロービジョンケアを知ること、福祉機器などの補助具の使用や歩行訓練を受けることにより、生活のクオリティが格段に向上することができ、就学や進学、就労継続が可能になることもあります。

本講演では、ロービジョンケアを知っていただき、少しでも見えづらい方やそれを支える方のアドバイスになれば幸いです。